

自然災害と作業療法

特集にあたって

東日本大震災から6年が経過する今、被災地では仮設住宅から復興住宅に移行し、新たなまちづくりに取り組みは始めている方がおられる一方、長年住み慣れた土地を強制的に移動させられ、仮の生活を転々と続け、どこに終の棲家を求めたらよいのか決めかねている方も多くおられる。多くの悲哀の経験を重ねながら、誰もが元の生活に戻ることができないことを実感する6年でもあった。

この間、OTは多くの支援活動を展開してきた。発災当初から復興のこの時期まで、どの時期にも作業療法は役に立つという実感ももてるものでもあった。避難所や仮設住宅における住環境の整備、ひきこもり防止や活動性を引き出す支援、高齢者ばかりでなくさまざまな困難を抱えた方々への多岐にわたる個別支援等を通して、人は困難な生活を送りながらも可能なかぎり作業に取り組むことで日常を取り戻し、心身の回復ができるとあらためて気づかされた。

そして、OTを活かす活動を展開するためには多くの方々との連携が重要であることも体験した。災害時に必要なネットワークは、平時につくられているのである。

本特集は、東日本大震災の6年の経過を座談会として3県の代表者と共に振り返った。そして、その後起こった、茨城県における台風被害、熊本地震、岩泉町における台風被害でのOTの災害支援活動を報告していただき、日本作業療法士協会の災害対策について述べた。私たちのこの経験は、これから起こるであろう災害時にも生かされると思う。

皆が平和で暮らせる日々感謝しながら、真摯な作業療法実践を積み重ね、災害時に迅速に対応できる準備を整えておきたい。

(香山明美)

企画担当

香山明美 (みやぎ心のケアセンター, OT)

宮崎明美 (旭川荘みどり学園, OT)